

## 行政改革推進委員会 平成29年度第6回会議議事要録

### 1 日時

平成30年2月22日（木） 午後7時から午後8時30分まで

### 2 場所

島田市役所4階第3委員会室北

### 3 出席者

委員：小泉委員長、山本副委員長、青山委員、大池委員、鈴木委員、櫻井委員、杉浦委員

事務局：北川行政経営部長、原田経営管理課長、樽林行政改革担当係長、鈴木主査

### 4 概要

#### 1 開会

#### 2 審議事項

##### 島田市行政改革推進委員会委員の意見（案）について

事務局から資料に基づき説明を行った。

- ・取りまとめ方法は、委員会で発言された委員の意見を、カテゴリーに分け整理した。その上で、タイトルをつけたものである。
- ・タイトル、報告の書式などについて、御意見をいただきたい。

##### 【質疑応答】

- 委員長 ご自身が発言された内容でも、他の方が発言された内容でも構わないので、何かお気づきの点があればお願いしたい。また、現段階で、追加したい内容があればお願いしたい。
- 委員 2ページ目の5番目の箇条書きであるが、「進捗状況が計画どおりでないものがある」と言い切っている。しかし、読んでいくと、「いつまでにできるということより過程が重要であり、スケジュールどおりでなくても問題は無く、むしろ遅れるほうが内容的に皆さんの認識が広まっていく」とあり、進捗状況は計画どおりでなくてもよいと言われていると思う。最初の言い切りの表現からは、進捗状況は計画どおりでなければならないという印象を受けた。
- 委員長 想定したスケジュールはあるが、ものによっては、スケジュールより内容が重要であるものがあると言われているものだと思う。委員が言われたとおり、この意見を読んだ方に、誤解を与えてしまう可能性があるため、

事務局で表現を少し工夫していただきたい。

○事務局 はい。

○委員 3ページの1番目の箇条書きは、読んでも意味が分からなかった。文章中に「公益性のある活動を長年にわたり続けている団体」とあるが、これは一般の方々のことだと思う。この意見は、私が出席できなかった会議で発言されたものであるため、会議録で内容を確認した。話の流れは、市民の力を活かす手法や取組の話の中で、「公益性のある活動を長年にわたり続けている団体などへの表彰はあるが、もう少し軽めの、奨励賞のようなものがあるとよい」という発言があったと思う。それに続き、「職員のやる気についても同じであり、制度だけでなく、イベント的なものがあるとよい」となっていた。この文章だけで読むとよく分からず、会議に出席した人でないと理解できない内容になっているのではないかと感じた。

○委員長 この部分は、二つに分けた方がよい。

○委員 3ページの4番目の箇条書きに、「市役所が「ありがとう」という言葉が言い易い雰囲気であれば、市民からも自然に出てくる。そういう雰囲気になると、税金も自ら納めてくれるようになり、市の職員の仕事が減る」とあるが、表現がダイレクトすぎる。例えば、「市民が納得して税金を納めてくれるようになり、職員の仕事の効率化につながる」というような表現にした方がよいのではないか。

○委員長 税金の話自体は出てこなくてもよいのではないか。例えとして、結果的に、このような効果があるという話である。税金を納めてくれるようになるというよりは、仕事の効率化につながってくるということだと思う。話の意味が違ってきてしまう可能性もあるため、「市民からも自然に出てくる」までにしてはどうか。

○事務局 はい。

○委員 2ページ目に、「市民からの「ありがとう」が職員の誇り」というタイトルがついている。後半はこの内容であるが、前半は、どちらかというところ人事評価の話であると思うため、「職員のやる気は評価制度だけでは高まらない」という言葉を、今のタイトルの前につけてはどうかと思った。

○委員長 評価はプラス評価もある。評価はマイナスの部分だけに光が当たりがちであるが、プラスの部分が大事である。職員のプラス面を評価することと市民からのありがとうという言葉が職員のやる気につながっているという内容になっていると思う。委員の意見を踏まえ、タイトルの修正をお願いしたい。

○事務局 はい。

○委員 色々な回に出ていた意見を漏れなく載せていただき、上手にまとめていただいている。昨日、市の職員の方と100人会議のメンバーと話をする機会があった。その中でも出てきた話は、4ページの下から2番目の箇条書き

にあるように、自分達でできることはやっていくため、市に少し協力して欲しいということであった。市は、色々なところをつなげて動くようにしたり、ワンストップになるようにしたり、横串を刺したりして、固定的なものではなく、プロジェクトのようなものを作ったり、壊したりしながらやっていく必要があると思う。重点的なものは移り変わっていく。プロジェクトごとに集合したり、解散したりしながら、後押ししていくための中心となる司令塔のようなものを、市が作っていくようになればよいという話があった。

- 委員長 「市民同士のつながるきっかけは、ほんの少しの行政からの支援」というところの話なのか。
- 委員 例えば、重点的に何かをやっていく時は、市が、もう少し関わっていただきたいという思いがある。イメージとしては、市民同士がつながるといよりは、4ページの下から2番目の箇条書きの中にある「事業が無くなってもいいが」というところになっていくためには、その前段階として、関係する人達や団体に集まっていただき話をする必要がある。
- 委員長 色々な団体の代表者ではなく、実務的なことをやっている方々が集まり、共通のテーマについてみんなで議論し、どのようなことができるかを考える場を市が設けるといふことか。
- 委員 最初は、そのようなものが必要であり、それがもう少し発展していく。
- 委員長 やっていきこうという話になれば、市が関わり、事業を展開していくということか。
- 委員 個人や一つの団体が呼び掛けてもなかなか集まらないため、市が集めていただく必要があるのではないかと思う。
- 委員長 団体と行政が一緒になり、取り組んでいくイメージなのか。
- 委員 はい。
- 委員長 最初に必要なのは、そのような方々が集まる場を用意し、議論していただくが、テーマの設定も、市がするのではなく、その方々が自分達で決めていくのか。
- 委員 それが理想だと考える。
- 委員長 市民の人達と一緒に考えていく中で、みんなでやろうということになり、やっていく話だと思う。最初の段階から、議論していくということだと思う。今、そのような、実務者の方々が集まるような場はあるのか。昨日の集まりはそのようなものか。
- 委員 そのような場は無いと思う。昨日の集まりの中で、そのような場ができるといいという話があった。例えば、100人会議の観光・商工の分科会の方々が集まった時に、観光のことを深めていきこうとした時に、どこか、司令塔になるところがないと進んでいかない。そういうところができたらいいという中で、市に少し手伝っていただければという話になった。

- 委員長 あまり一般論で言い過ぎると、読んだ方が分からない可能性があるため、具体的に例示した方がよい。例えば、観光のことであれば、このようにしたらこのようになるということを完結に書いた方が、読んだ方も分かりやすい。事務局と相談していただき、4ページに追加していただければと思う。
- 委員 1ページの「市民同士のつながるきっかけは、ほんの少しの行政からの支援」のところに关わることであると思う。支援の仕方であるが、私のイメージでは、行政の方は親切すぎる人が多いように感じる。そうなると、自立ができなくなり、要求もエスカレートしがちである。2ページの2行目にあるように、市が関わるのであれば、「幹事を選ぶ手助け」のように、あまり親切すぎず、自立していくような育て方を、頭に入れて関わっていただければと思った。
- 委員 私の感想であるが、4ページの「市民と行政は十分に対話しよう。市民と行政の架け橋となる人を育てよう。」のタイトルは、委員の意見の内容と非常に合うものであると感じた。同時に、私自身、行政の一部であり、市民でもあるということを感じた。行政という立場も大事であり、行政の考え方を持っているが、同時に、市民でもあるため、自分を感じることは、市民の皆さんも感じている。行政の職員であると同時に市民であり、私を感じることは市民も感じていることだと思う。よく、「行政」というが、その時には「市民」という意識があまり無いことが多いように感じた。例えば、職員が市民主体の活動に参加していく機会があればよいと思う。以前、一市民の立場として、民間事業者の方とチームを組み、イベントを開催したことがある。民間の方と、行政という立場を持ちつつ、市民として関わることができた。単純に市を盛り上げたいという若い人達が潜在していることを感じた。その人達が、自分達の活動を知り、自分達もやってみようというように連鎖していけば嬉しいと思っている。職員が、もう少し市民的な意識を持って、そのような活動をしていけばよいと思った。
- 委員長 役所の中で「市民」というと、外の人というか、自分達とは違う人という意識になりがちであり、「行政」と「市民」は対極にあるように感じてしまう。職員も市民であり、市民感覚を持ち、地元と関わっていく中で、市民としての情報を得ていく。市の職員は、地元に近いため、日常生活の中で市民の方から色々な情報を得られるところが強みである。市の職員も、市民としての活動に取り組んでいくことは非常に大事である。このことも、少し、事務局と話をしていただき、意見として追加していただければと思う。
- 事務局 はい。
- 山本副委員長 いつも、「市民」と「行政」という話で、何か足りないと感じている。それは法人などの「事業者」である。例えば、「市民」という

言葉は、この意見（案）の中に出てくる。島田市に拠点を置く法人の中には、市民以外の方もいるが、行政と非常に関わりがある。私も、法人として市役所に行くことがある。市民として行く時は、非常に親切な対応を受けるが、業者として行く時には、対応の悪さに腹立たしい思いをすることがある。私のように、法人の立場もあり、市民の立場もある方はたくさんいる。市民の活動について、私と同じくらいの年代の経営者の方は、消防団や商工会議所や青年会議所など色々な団体に所属し、様々なイベントを行っている。会社を経営しているだけあり、リーダーシップもある。大きなイベントの裏には、そのような方々がいることが多々ある。「市民」や「行政」という立場をクローズアップしているのであれば、市に存在する法人にもスポットライトをあててもよいのではないかと思った。

- 委員長 専門事業者の方から聞く話である。自分達の商売としてではなく、行政のことを考え、親切にアドバイスや提案をしているのに、行政からすると、業者が何を言っているのかということ、思いが伝わらないことがあるようだ。業者との関係も、当然対等関係にある。色々なところと連携していく中で、業者との関わり方も大事である。このことも、意見として追加していただければと思う。
- 委員 皆さんの色々な意見を、事務局でタイトルをつけ、まとめていただいている。最終的に、市長に報告するに当たっては、タイトルはついていますが、細かい内容まで読んでいただけるかという点と難しいのではないかと。そのため、意味が伝わる程度に表現を簡略してもよいのではないかと。また、ポイントとなるような所に、下線を引き、強調させることもよいのではないかと。書いて終わりではなく、これを、市の方に出した時に、活用していただけるような提言書になるとより良いのではないかと感じた。また、皆さんが言われたように、市民との協働のところは、市民が、市政との関わりの中で、島田市に住んでいる限りは、島田市が良くなって欲しいという思いはあるが、その思いを、どのように形にしていけばよいのか分からないと思う。市民が、もう少し、協働に参画しやすい環境や仕組みづくりができると、より、市も盛り上がっていくのではないかと感じた。
- 委員長 まとめ方については、多少は、メリハリをつける方法もあると思う。少し事務局で検討していただきたい。
- 事務局 はい。
- 委員 この意見（案）を読むと、色々な意見が出たことが分かる。似たような意見が多く、分量もある。カテゴリはきちんとされている。市長に伝えやすくするために、コンパクトに短い文章にして、カテゴリごと3つくらいにした方が伝わりやすいのではないかと感じた。また、行政改革推進委員会の意見ということで、行政に対する意見がメインになってくると思う。内容的には問題は無いが、市民に対する要望が若干あり、それを

伝えるのかどうか。行政と市民に対する両方の意見があることについて気になった。

○委員長 でき上がっているものを変えることは大変である。市長に読んでもらうように、ポイントとなるところを要約し、ワンペーパーにまとめてはどうか。委員からは、するどい指摘があったと思う。この意見（案）の中には、市民に考えていただきたいという部分もある。今回の趣旨は、行政へ意見を伝えるということである。直接、市民へ伝えるということではないが、市民への訴えの必要性を、行政側に理解していただき、市民の方にもそのようなことを理解していただけるよう、まずは、行政から努力していただければと思う。

○委員長 意見を紙ベースでまとめていただいた委員から、説明をお願いしたい。

(大池委員 別紙1に基づき説明)

- ・ 少子高齢化、人口減少等により、市が直接行うことは減らしていく必要がある。
- ・ そのためには、市と協力しながら多くの市民に働き掛けることができる市民を育てる必要がある。
- ・ 育てるに当たり、市民とプロのスキルを持った人を組み合わせ融合させることが大切であり、コーディネートすることは、行政でないとできないと思う。
- ・ 豊田市の取組事例であるが、市民ライターが山里に移住した女性にインタビューして山里暮らしを紹介した情報誌「里co」を発行した。インタビューの仕方や記事の書き方、レイアウトなどポイントになるところはプロの方が関わり、実動となるところは市民の方がやるという組み合わせをすることにより、質の高いものができ、市販されている。
- ・ 「里co」の発行を中心に行っていた「おいでんさんそんせんたー」は、市の一部門であったが、半年前に一般社団法人となった。
- ・ このような取組が島田市でもできたらよいと思う。

(鈴木委員 別紙2に基づき説明)

- ・ すでにある仕組みかもしれないが、議論の一つのたたき台になればと思う。
- ・ 行政経営戦略に掲げる「人口減少社会に挑戦」していくためには、これからの行政改革は市民サービスや満足度の向上の視点が大事である。
- ・ 島田市が住みやすいまちになれば、島田市に住む人が増える。人口が増えれば、税収も増える。新たな施策やサービスを行うことができれば、市民サービスや満足度が向上し、さらに、島田市に住む人口が増えるという好循環となる。
- ・ 市民サービスや満足度を向上させる例は資料のとおりである。

- ・ 少子高齢化への対応について、全国的に登下校中に交通事故に巻き込まれる子どもが多いことから、今一度、子どもが安心して通学できるよう点検、確保が必要ではないか。また、ひとり暮らしの高齢者が増える中、高齢者が気軽に集まることができる場がもう少しあってもよいのではないか。
- ・ 医療費の充実について、島田市に住んでいれば最良の医療が受けられる体制があればよいと思う。
- ・ 市民が市政に参加できる仕組みづくりが必要ではないか。そのような仕組みができると、今までは行政が行ってきたものを、市民が行うようになることで、経費が削減され、行政では思いつかないアイデアがうまれるのではないか。市民も行政に協力できているという誇りや充実感がうまれてくるのではないか。
- ・ サービスを向上させるため、島田市を活性化させる施策を3つ考えた。施策は資料のとおりである。

(委員長 別紙3に基づき説明)

- ・ 前段は、委員会を傍聴していただいた方の意見などを基にまとめたものである。トップの方針の浸透を図ることは重要であるが、職員が与えられた仕事だけでなく、全体を見て自分が何をすべきか考える必要がある。また、トップダウンできた市長方針を理解するためには、職員が一つ上の立場で物事を考えていくことも重要である。トップダウンで進めていくものと、ボトムアップでやるものをバランスよくやっていくことが重要であるとまとめてある。
- ・ 中段は、一般論として、市民との連携が重要であることを、最後は、一般的なことを書いてある。

○委員長 一つ言い忘れたが、3ページに「公共施設は広域で共同運営しよう」とあるが、「共同運営」というと、一つのやり方に限定されてしまう。市域を超えて活用することを考える中で、一つの方法として、共同運営があると思う。全てのを共同運営すればよいというわけではなく、それぞれ運営していく中で、いかに、相互乗り入れや活用をしていくかということだと思つたため、「施設は広域で活用しよう」とした方がよい。下から2番目の箇条書きの2行目に「市を超えて共同で運営していく」とあるが、「市を超えて活用していく」とした方がよい。

○委員長 追加する意見については、委員の方と事務局で話をし、追加していただければと思う。会議は、本日で最後となるため、全体のまとめ方は、要約を作るかどうかも含め、委員長に一任していただくということによるしいか。

(委員承認)

○委員長 それでは、以上で本日の審議を終了する。

### 3 その他

- ・取りまとめた意見を市長に提出し、併せて、市長と委員との懇談する時間を次のとおり設定する。

日時：平成30年3月15日（木）17:30から18:00まで

場所：市長応接室

- ・市長へ意見を提出する際には、冒頭、委員長が要点を説明する。
- ・取りまとめた意見及び市長への意見提出・懇談会への出席依頼は、後日、委員へ通知する。

### 4 閉会